

教員全体評価アンケート(記述) 集計

<p>[14] SSH事業において「成果をあげている」と考えられる点について、ご記入ください。</p>
<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の好奇心、探求心に火をつけ、さらに学びに向かう姿勢を育成している。 2 生徒の課題解決能力の向上、その意欲の底上げ、それに係る指導内容の更なる充実化が図れていると思う。他校生との比較をした時に本校生徒の発表内容レベル、その質疑場面における対応のレベルがとても高い。今後も高くなっていく。 3 興味関心や科学に対する視野が広がっていると感じます。校内外のイベントにも積極的に参加できている。 4 課題研究 5 課題研究、神高探究の発表 6 総合理学科の生徒が様々な学びの場を、校内外で得て、知る関心が高められ、将来の研究活動の基礎を身に付けている 7 神高探究・課題研究を通して協働活動の経験、じっくり試行錯誤する経験、形にしたものを人前で発表する経験が出来ることは、さまざまな活動で目には見えにくい成果として出ていると思う。 8 自分の研究テーマを発表する機会が多く設けられており、それらを通じて、成長する姿を見ることができた。自信をつけ、さらに研究に対して意欲的に取り組む姿勢を身につけることができていたと思う。 9 探究活動発表会 10 課題研究、特別講義、実験等 11 SAIによる支援 12 サイエンスフェアin兵庫 13 全国的に見ても探究活動や課題研究の活動を先導、牽引してきた。教科理数のモデルとなるサイエンス入門等、その影響力は大きなものである。生徒の成長においても卒業生の活躍等素晴らしいものがある。 14 予め最初から最後まで研究の全体像を思い描き、計画的に取り組むこと。 15 研究発表における論理展開、ポスターの作成、質問する力が総合理学科の生徒の方が優れている。 16 生徒が様々なヒック、課題への興味を持ち、発表などを通して自己表現も伸ばさせていると思います。 17 2年課題研究のレベルの高さは高校生とは思えない。未知の問題への探究心、議論する力、プレゼン力が大きく伸び、後輩が発表会でそれを見ることで刺激を受け、次世代へとつながる成果となっている。 18 部活動においても全国大会出場の研究を間近で見ることで、続けて全国を目指したいと活気づいている。 19 生徒の、発表する力は伸びていると感じます。 20 視野が広がる。通常ではできない実験や体験ができる。キャリア形成や生涯教育の芽を育てることができる。 21 課題解決に係る全ての力が向上している。特に、発表や議論など、言語活動の面で成果が大きいと感じる。 22 2年のブーメラン班の課題研究では、生徒が自発的にブーメラン発射装置を制作するなど、創造的に研究に取り組めるようになっている。 23 総理科課題研究は良くなってきているし、普通科探究活動も問題解決に関する能力を向上させていると感じられる 24 課題研究及び神高探究の取り組みが、神戸高校生として非常に意識高く積極的に取り組んでおり、今までの歴代の成果が確実に結びつき年々レベル内容が上がっていると感じる。 25 外部も参加可能な発表会等においては、本校生徒の取り組みを見てもらい、評価されていると感じています。それが志願者の質量での向上につながっていると思います。 26 生徒が「調べたい」と思ったことを素直に伝えられる環境があり、それを受け入れる(受け止める)先生方がおられるので、生徒は押し付けられることなく、純粋に実験や研究に没頭できる点。これは研究者に近く(なりたいたいと思う)第一歩だと感じます。
<p>[15] SSH事業において「改善を要する」と考えられる点について、ご記入ください。</p>
<p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議を減らす。 2 一部の負担になりすぎではないか。 3 学校をあげての取り組みであるべきと考える故に、関わり薄い教員から得られる活動への理解・協力が乏しい。 4 普通科の生徒に刺激を与えるきっかけを更につくる。 5 学校全体にも言える事だが、生徒同士、質問やアドバイスをする姿が近年減少している様に感じています。他者とのかわり合い方や質問力を向上できると良いと思います。 6 普通科へのかわり。 7 総合理学科がイニシアティブをとり、全教員がこれに積極的に関わっていくことが必要。放課後実施を授業時間やLHRで行い、生徒も教員も関わりやすい状況にする。 8 課題研究、神高探究等で使用する物品の管理。 9 全校挙げての体制となっていない。特定の部署、人に負担が集中している。 10 多くの教員がSSH事業に慣れて来ており、良い意味でも悪い意味でもあたりまえと感じている。SSH事業を行うこと、行っていることが特別であるという意識を再びもってもらいたい。 11 普通科に対しても、総合理学科に近い教育プログラム(を選択する権利)を提供すること。 12 「チーム」で考えるということが重要だけど難しくなっていますね。 13 課題研究においては研究活動と個人の予定(行事・部活動)を両立させる計画性を持たせる必要がある。 14 課題やイベントが多く、教員も生徒も一部疲弊しているのではないのでしょうか。 15 普通科の神探の時間とかにもSSH講演会は入れられないか？放課後だと部活でいかなない人も多く申し込みは限られてくる。良い講演は1年生の早い段階で見せたらSSH特別講演会は面白いから積極的に申し込もうという人が増えそう。もう少し普通科に還元して学校全体を活気づけたい。 16 職員間の共通理解。 17 良い取り組みを行っているも放課後や週末となると参加する生徒が一部に限られる。(部活動優先) 18 数年中止していた事業の再開に向け、準備を十分にすること。 19 代替事業としてやっていたことの見直し。 20 高校物理基本実験講習会について実施を担当したが、講師が依頼した実験素材の納品は手違いが重なり、講習会前日というぎりぎりの状況になった。以前から未納を伝えたが、連携的な改善を要する。 21 課題研究の実験ノート作成について、最初にレクチャーした方がよい。2年前に担当した時に比べてかなりレベルが低くなっている。 22 道具等の使い方や、使用後の後始末に丁寧さが欠けている感じられる。これらのCHECK、指導を各教員が強化した方がいいのではないかと。 23 コロナ禍の中でできなかったサイエンスツアーの再開を教育する上で教師の全体が今後のSSH事業へどのようにかわっていくかを真剣に考えていかねばならないように感じる。組織的な運営のあり方について案を出しあう場とそれを実践していくように、改善していく方がよいのでは？ 24 普通科にいつそう刺激を与えてほしい。 25 課題研究では、もう少しテーマの設定時期を早くし、実験などの時間と期間をもう少し長く取れたらと思います。 26 時間外や休日など総務部の先生方のご負担も少なくできたらと思います。 27 個人的に担当した部分において準備が不十分だったと感じています。組織的にも、もう少し整った指導環境ができていれればと思います。 28 「学校全体としての取組」という点について、少し蚊帳の外になっておられる先生がおられる。「数・理だけで。」というのもしちがうような。 29 普通科の生徒の意識改革。
<p>[16] ご意見、その他お気づきのことがあれば、ご記入ください。</p>
<p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 業務が多く、体に負担がきていると思うので休めるときにしっかりと休んでください 2 教師側の得意不得手の分野があり、適格なアドバイスが難しいと思います。 3 学校全体の業務の精選及び分配が必要。一部の負担が大きくなっている。このメッセージをもっと発信していくことが必要と考える。 4 決して楽な活動ではない。全職員に負担を強いることを共通理解すべきである。 5 下校時刻を守らなくとも、指導教員の目がなくともよい？活動しているというのは免罪符ではないはず。部活動にも満足に参加できなくなっているグループもある。色々な面で最低限のコントロールは必要。 6 神探の最終発表は今後も校内で行いますか？昔、甲南大でやっていたような。そういうのは厳しいですか？ 7 教師自身が毎年工夫して成果を増加させることができるように、行事や授業等のくり返しではなく「改善」を強く意識すべきだと思う。 8 「忙しい生徒達が、もう少しやりたいことにとっぷり時間を使える環境を整えてあげられたら。難しいですが。